

将来像検討 **Working Group**

フロンティアビジネス研究会 公開シンポジウム

パネルディスカッション1「宇宙資源ビジネスのロードマップ」

2018年11月1日

1. 将来像検討WGとは

将来像検討WG

研究会ビジョンの深堀、各WGの成果の統合・整理

具体的ミッション／ビジネスの検討

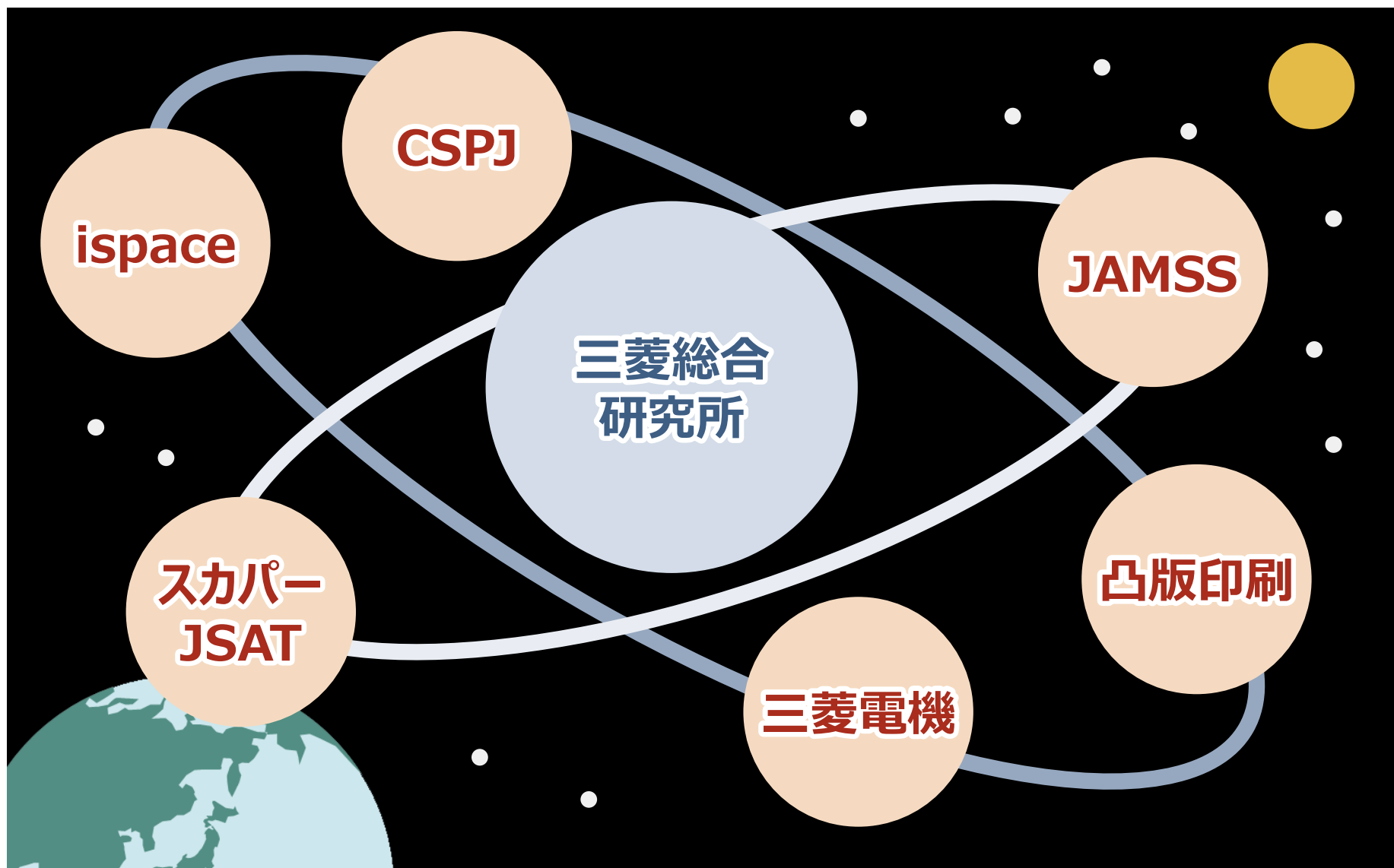
食料
WG

資源
WG

居住
WG

VR／遠隔
WG

2. WGメンバー

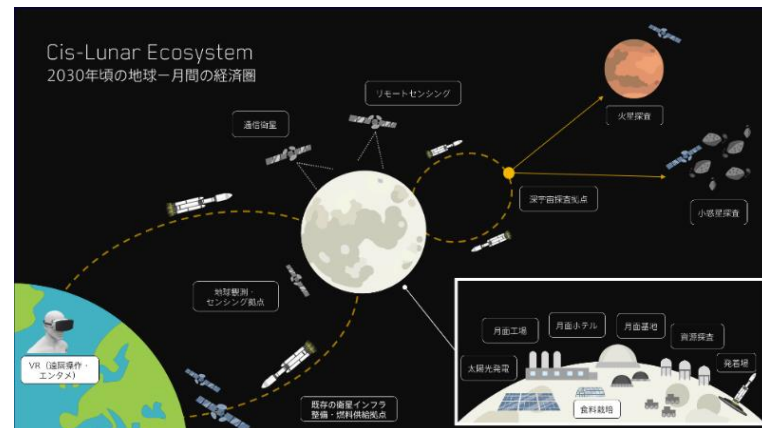


3. これまでの活動

1

ビジョンの深堀

それぞれどんなビジネスにしたい？
実現するためにはどうしたらいい？
波及効果は？

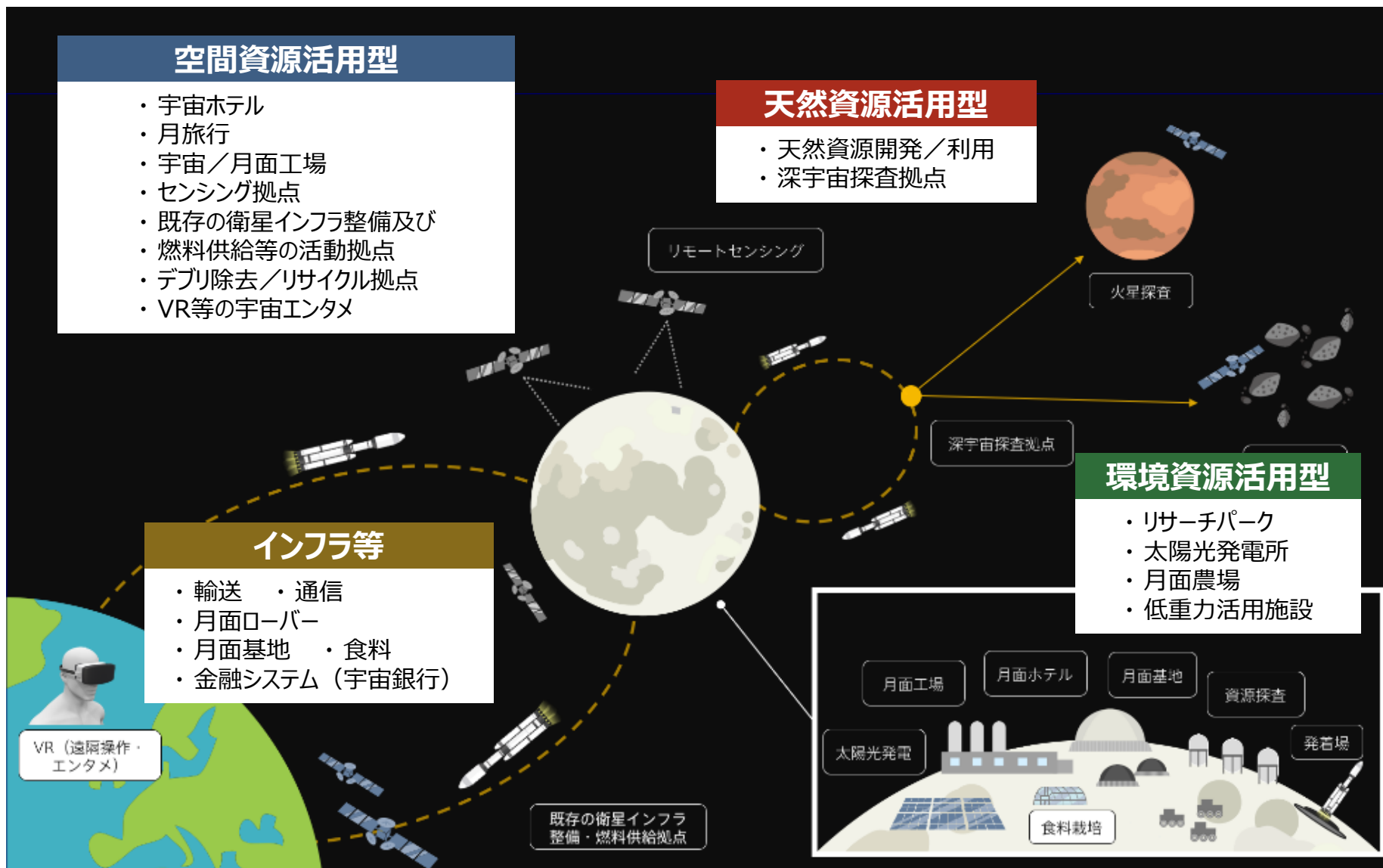


2

研究会ロードマップの作成

各WGのロードマップを統合し、研究会全体のロードマップを作成

3-1. ビジョンの深堀 | 対象ビジネス



3-1. ビジョンの深堀 | 例) 宇宙ホテルビジネス

概要

- 宇宙飛行士のみならず、民間人が宇宙に長期滞在することを可能にする施設。Cis-Lunar空間（軌道上）や月面に建設。
- 観光客を対象としたリゾート型ホテルでは、滞在者は美しい地球の姿を鑑賞したり、無重力体験等のアクティビティを楽しんだりすることが可能。一方で、月面作業者を対象とした宿泊所型ホテルのニーズも高いものと想定。
- 宇宙ホテルには、宇宙機の離発着ホームや太陽光発電設備が併設。

実現に向けた課題や解決の方向性

- 輸送インフラ、建設技術、ライフライン敷設が大前提。
- 快適な生活環境の提供がリゾート型ホテルビジネスの成功を左右。（宇宙酔い、風呂トイレ、衣服、食事等の問題）
- 安全・安心感の醸成 → サブオービタル宇宙旅行 → 低軌道宇宙ホテル等のステップを得る必要有。
- コスト問題（富裕層相手だけでは成り立たないか？）

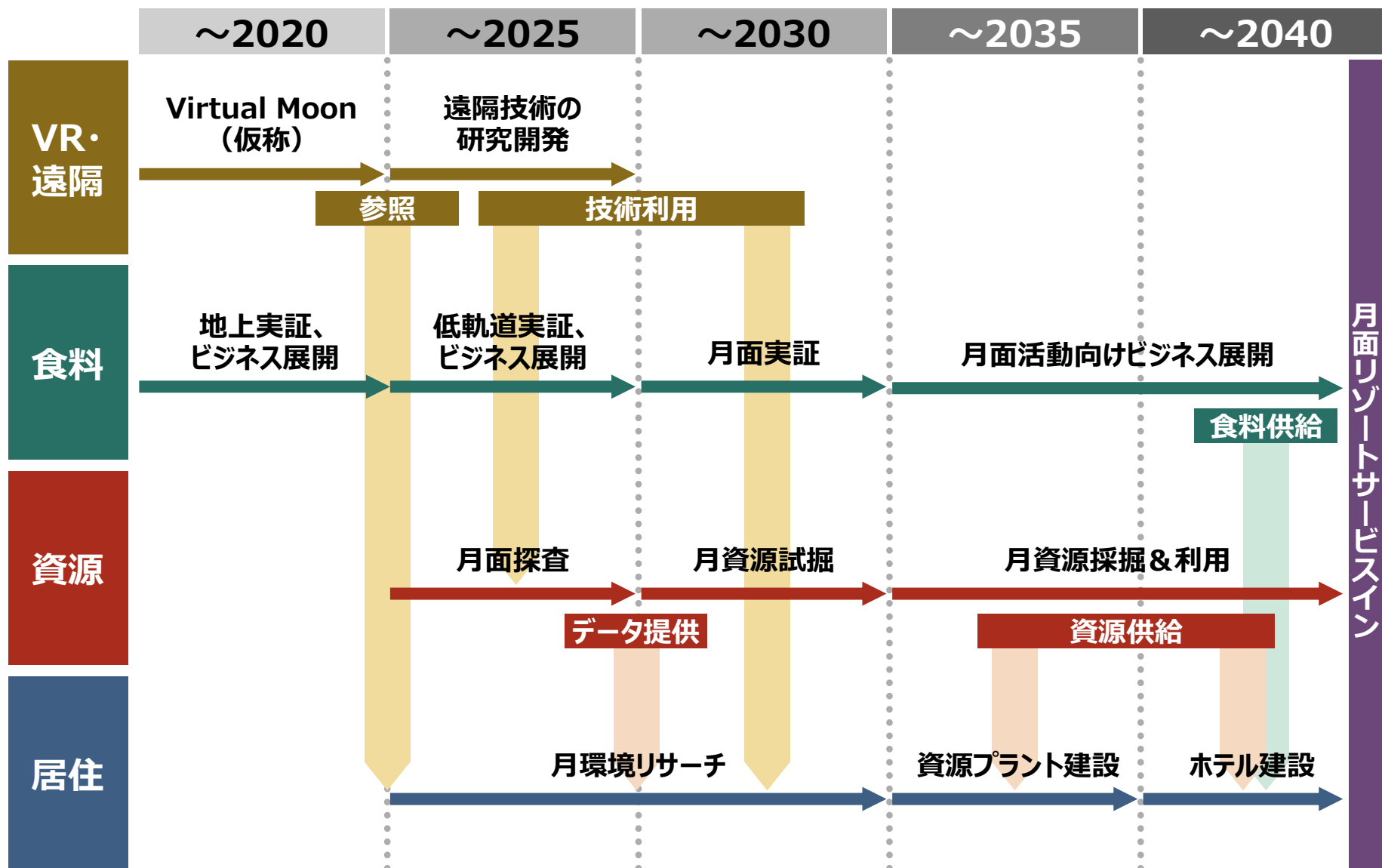
エコシステム

- サービス事業者：ホテル経営業者、旅行業者
- 顧客：主に一般民間人（リゾート型）、月面作業員（宿泊所型）
- 他のビジネスとの関係性：有人宇宙輸送システムの定期・安全運行実現が大前提。さらに、ビジネス成功のためには、食料・エネルギー供給事業の成熟が不可欠。

波及効果

- 軌道上／月面での滞在施設の実現は有人活動の基本 → あらゆる有人活動に波及。
- 有人宇宙輸送、宇宙農業等の市場規模拡大。
- 月面有人滞在技術の進展により、将来的には他の惑星での滞在も可能に？

3-2. 研究会ロードマップの作成 (※現時点でのイメージ)



4. 今後の活動予定

1

**研究会ビジョン／
ロードマップの検討継続**

2

**各WGにおいて仮定している
前提条件や試算結果等の
整理・統合**